

【実施日時】

2021年10月3日（日） 20:00～21:30

【概要】

放鳥'sの末次博士による博士論文の内容を紹介。野生生物の治療の話ではなく、生息環境や保護管理など環境面や人的側面で野生生物保護について研究したものとなる。

里地里山における野生生物の保護管理と人間活動の両立を目指す具体的な手法を確立することは、日本の生物多様性保全にとって極めて重要である。本研究では、鳥取県を対象として、里地里山に一般的に存在するが研究例が少ない林業と道路について、野生生物の保護管理の現状と課題を「技術」と「仕組み」の両面から明らかにし、重要な要因を考察した。

テーマ1：林業

オオタカ(*Accipiter gentilis*)の積極的保護が試行されているアカマツ人工林「鳥取県立大山オオタカの森」における保護管理の研究を行った。



採卵中のオオタカ成鳥
(2010年8月 田中一郎氏撮影)

テーマ2：道路（ロードキル）

ロードキルとは動物の交通事故を指す。ロードキル防止対策の基盤となる「記録」に関する研究を行った。



道路を横断するシカ
原稿元：https://trafficscience.jp/post/93765

【講師】

末次 優花 博士

放鳥's (大阪野生動物リハビリテーター)

（略歴）

鳥取大学農学部、連合農学研究科卒業（博士号取得）

現在、まちづくりシンクタンクに所属

【タイムスケジュール】

20:00 講師および参加者紹介

20:10 末次博士発表

20:50 意見交換



- 道路で傷ついた動物を見かけた時、死んでしまった動物を見つけた時、どうしたら良いか知っていますか？
- ロードキルをいつ、どんな時によく見かけますか？
- これからの取り組みについて